

FDK

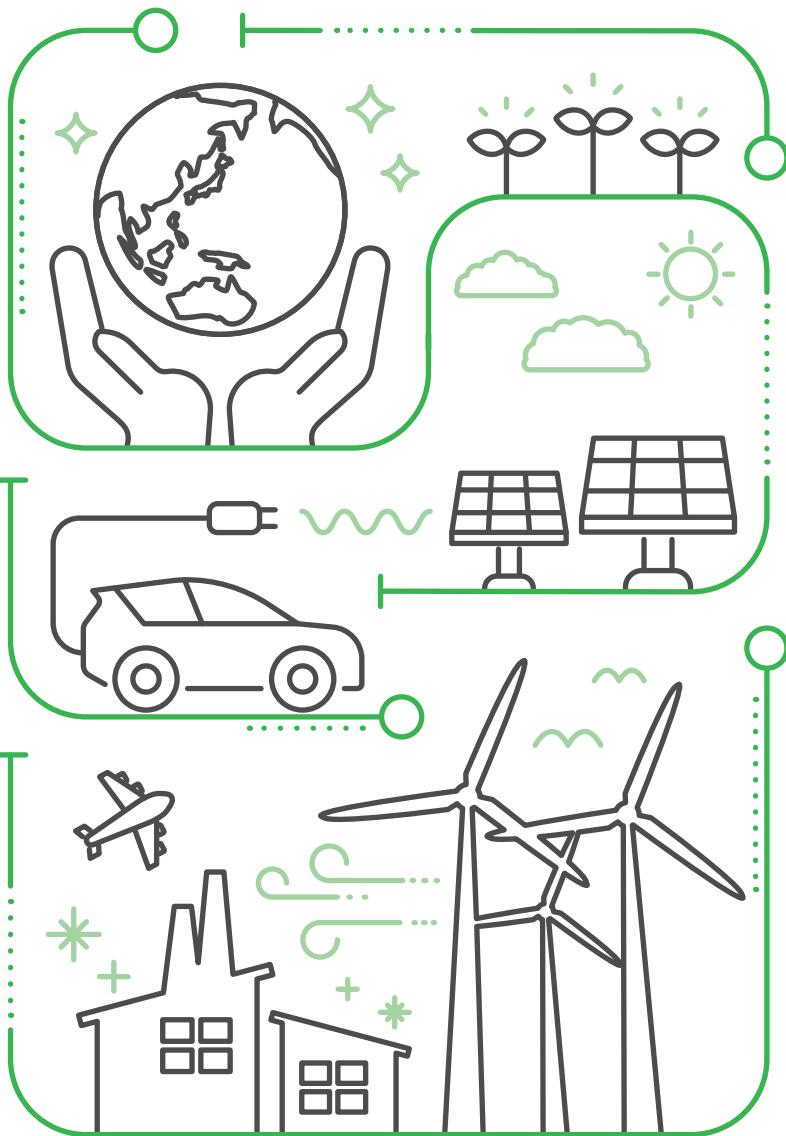
進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために
Inspiring transformation; shaping the future and creating happiness.

第96期

中間報告書

2024年4月1日から2024年9月30日まで

FDK 株式会社



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社グループ第96期中間期（2024年4月1日から2024年9月30日まで）の決算をご報告するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当中間期は、中期事業計画「R2」で柱に掲げた「主力ビジネスの利益ある成長の加速」、「新規ビジネスの始動と開拓」に向けた取り組みの達成に向け、技術VEによるコスト削減や徹底的な経費削減を推し進めることで外部環境の悪化などの不測の事態に対応できるレジリエンスを強化するとともに、新規ビジネスの獲得、深耕開拓に努めました。電池事業では、高い耐久性と高容量化を実現したニッケル水素電池の電源バックアップ市場向けのサンプル出荷や、低温放電性能を向上させた当該電池の車載アクセサリ市場向けの量産出荷を行ないました。また、アルカリ乾電池では吉本新喜劇とのコラボレーションによる防災備蓄啓発のデザインを施した製品の発売など販売促進に努め、リチウム電池においては、累計出荷数15億個を達成しました。電子事業では世界最小クラスの「Bluetooth® Low Energyモジュール」の電波放射性能を向上させた新製品を開発し、サンプル出荷を開始しました。

当中間期の経営成績につきましては、売上高は電子事業でスイッチング電源やトナーの減少があったものの、ニッケル水素電池、設備関連ビジネス、アルカリ乾電池の増加、前期に出資持分を取得したBAOTOU FDK CO., LTD.の売上高が加わったことに加えて、円安による売上増により、前年同期に比べ24億13百万円増の326億59百万円となりました。営業利益は電池事業での売上増と原材料価格の変動による利益貢献に加え円安効果もあり、前年同期に比べ8億62百万円増の7億85百万円となりました。経常利益は1億5百万円の為替差損などを営業外費用として計上したものの、前年同期に比べ4億95百万円増の6億31百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期に比べ3億88百万円増の3億52百万円となり、いずれも期初の想定より良化しました。

中間配当につきましては、未だ欠損状態でありますので、誠に遺憾ではございますが見送らせていただきたいと思います。株主の皆様には誠に申し訳なく、心よりお詫び申し上げます。

下期以降につきましては、中期事業計画「R2」で掲げた目標達成のため、上期から継続して売上拡大および更なる原価低減を行ない、様々な外部環境変化へのレジリエンスを強化することで、事業基盤を強固にするとともに成長路線への転換を加速させてまいります。また、高付加価値・サステナビリティを訴求した環境負荷の低い製品開発の強化、DXを活用した様々な業務改善に努めてまいります。次世代電池の開発についてはビジネスプランの策定をさらに加速し、ニッケル亜鉛電池については上期に引き続き特性改善に努め、お客様へのサンプル出荷を拡大してまいります。また、もう一つの柱である「認め合い・高め合う文化の醸成」に努めることで企業文化・風土の変革に繋げ、経営品質の向上に努めてまいります。そして「進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために」という経営理念のもと、全てのステークホルダーに満足いただく「And Game」の実現のため、企業価値の向上に繋げてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続き当社グループをご支援賜りますようお願い申し上げます。

※Bluetooth®ワードマークは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する商標です。



代表取締役社長
長野 良

Profile プロフィール

1961年 9月7日生まれ
1985年 4月 富士通(株)入社
2019年 4月 当社執行役員常務
2019年 6月 当社代表取締役社長

2024年12月

連結決算ハイライト

売上高



営業利益
又は営業損失(△)



経常利益



親会社株主に帰属する中間(当期)純利益又は
親会社株主に帰属する中間(当期)純損失(△)



事業別の概況

電池事業

電池事業はニッケル水素電池、設備関連ビジネスやアルカリ乾電池が増加したことにより、前年同期を上回りました。

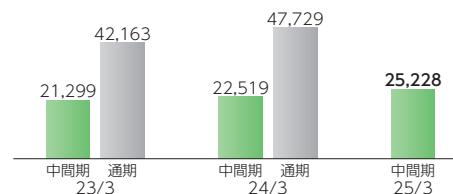
製品別につきましては、ニッケル水素電池は、国内外の市販・工業用途向け、海外の車載用途向けで増加したこと、BAOTOU FDK CO., LTD.の売上高や円安効果も加わったことにより、前年同期を上回りました。設備関連ビジネスは、自動車関連設備が増加したことにより、前年同期を上回りました。アルカリ乾電池は、前年同期を上回りました。

その結果、当事業全体の売上高は、前年同期と比べ27億9百万円増の252億28百万円となりました。

売上高構成比

77.2%
(25,228百万円)

売上高 単位:百万円



電子事業

電子事業はスイッチング電源やトナーが減少したことにより、前年同期を下回りました。

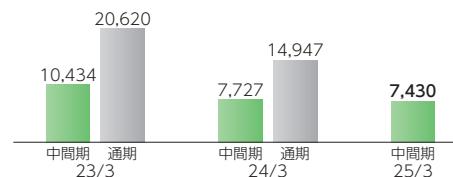
製品別につきましては、スイッチング電源は、半導体装置用途向けが減少したことにより、前年同期を下回りました。各種モジュールは、モビリティ・液晶ディスプレイ用途向けが堅調に推移したことにより、前年同期を上回りました。トナーは、前年同期を下回りました。

その結果、当事業全体の売上高は、前年同期と比べ2億96百万円減の74億30百万円となりました。

売上高構成比

22.8%
(7,430百万円)

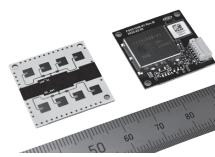
売上高 単位:百万円



ニッケル水素電池



リチウム電池



移動体検知モジュール



トナー

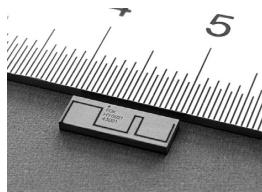
トピックス

世界最小「Bluetooth® Low Energyモジュール」の新製品「HY0021」のサンプル出荷を開始

当社は、株式会社東芝が持つSASP™ (Slot Antenna on Shielded Package) 技術のライセンスを受け、「Bluetooth Low Energyモジュール」の第2弾として新製品「HY0021」を開発し、2024年7月下旬より国内顧客向けにサンプル出荷を開始いたしました。

Bluetooth Low Energyモジュールは、世界最小水準の体積にBluetooth通信に必要な部品を搭載しているため、あらゆる箇所に設置可能な超小型機器を手軽に開発できることをコンセプトとしています。

新製品「HY0021」は従来品「HY0020」と同じ3.5mmx10mmサイズでありながら電波放射性能を向上させた一方、内蔵ICやメモリ容量の見直しによりコストを削減したため、手軽に、より低コストで、シンプルな小型機器化を実現できます。そのため、センシングデータをクラウド管理する小型医療機器や紛失防止や見守りタグなどに適しており、国内外の電波法認証を取得しております。



Bluetooth Low Energyモジュール「HY0021」

※SASP™ワードマークは、株式会社東芝が所有する商標です。

吉本新喜劇 防災アルカリ乾電池発売について

当社は、今年65周年を記念する「吉本新喜劇」とコラボレーションし、すち子さん＆吉田裕さんのキャラクターをデザインした防災アルカリ乾電池「防災備蓄せんのかい! 乾電池」を全国のホームセンター、スーパーマーケット、家電量販店などで限定販売しました。

防災グッズには、ランタン、ラジオ、乾電池式スマホ充電器など、乾電池を使用する機器が沢山ありますが、災害発生時に乾電池が手元になければ、せっかくの防災グッズも使うことができません。防災備蓄を啓発するために、「吉本新喜劇」とコラボレーションし、すち子さん＆吉田裕さんをキャラクターとしてデザインした防災アルカリ乾電池を商品化しました。



アルカリ乾電池 単3形8個
シュリンクパック

アルカリ乾電池 単3形4個
プリスターパック

4月

5月

6月

7月

8月

9月

車載アクセサリ市場向けニッケル水素電池 (HR-AAEX) を開発し量産出荷を開始

当社は、新たに車載アクセサリ機器用のニッケル水素電池「HR-AAEX」を製品ラインアップに加え、2024年8月から量産出荷を開始いたしました。

当社は1991年からセキュリティ・車載・医療・家電など様々な用途向けに、「幅広い温度範囲で使用できる」、「充電して繰り返し使用できる」、「リサイクル性が高く」、「安全性も高い」といった特長を有するニッケル水素電池を製造・販売しています。

車載アクセサリ機器の多様化に伴い、お客様から寄せられる安全でより幅広い温度範囲で使用可能な電池、長寿命に特化した電池などの様々なニーズにお応えするため、当社はこれまで様々な電池を供給してきました。

車載アクセサリ機器市場の傾向として低温環境下での放電要求が増加しています。当社はこのニーズに応えるために、新規材料(水素吸蔵合金、外装缶など)の採用と電池容量を増やすことにより、約1.2倍の電池容量と-40℃の環境下における放電時間約6倍(当社比)を実現しました。



ニッケル水素電池
「HR-AAEX」

リチウム電池の累計出荷数15億個を達成

～工場内再配置による第二工場棟の活用も開始、再生可能エネルギー活用で先進工場へ～

当社は、鳥取工場(鳥取県)で生産しているリチウム電池の累計出荷数15億個を達成しました。

同工場で開発・製造・販売するリチウム電池は、国内外で各種スマートメータ関連機器、IoT機器、セキュリティ機器、火災警報器、医療機器など幅広い分野にお使いいただいています。

2010年の事業譲受以降、多くのお客様にご愛用いただくため、生産能力増強や工場内再配置による生産効率の向上によって順調に出荷数量を伸ばし、累計出荷数15億個を達成することができました。

製品のスマート化による情報通信量の大幅な増加に伴い、今後もリチウム電池の需要はますます高まることが予想されるため、当社は2030年までに次の目標である累計出荷数20億個を目指してまいります。

また、鳥取工場は、持続可能な社会の実現のため、カーボンニュートラルに向けた取り組みも行なっています。再生可能エネルギーの活用推進として、太陽光発電システムを新たに設置しCO₂排出量の削減を進めています。今後はこの取り組みを加速させ、人や環境に配慮したモノづくりを実現した先進工場を目指してまいります。



リチウム電池



太陽光パネル設置後

■ 連結財務の概況

■ 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期末 (2024年9月30日現在)	前期末 (2024年3月31日現在)
資産の部		
I 流動資産 1	32,210	36,593
II 固定資産	14,794	14,962
（有形固定資産）	14,032	14,158
（無形固定資産）	347	374
（投資その他の資産）	413	429
資産合計	47,004	51,556
負債の部		
I 流動負債 2	29,846	34,219
II 固定負債	1,421	1,691
負債合計	31,268	35,911
純資産の部		
I 株主資本	13,242	12,889
資本金	31,709	31,709
資本剰余金	26,225	26,225
利益剰余金	△44,640	△44,993
自己株式	△51	△51
II その他の包括利益累計額	2,390	2,653
その他有価証券評価差額金	38	59
為替換算調整勘定	2,385	2,758
退職給付に係る調整累計額	△33	△164
III 非支配株主持分	104	102
純資産合計	15,736	15,645
負債純資産合計	47,004	51,556

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨ててにより表示しております。

POINT

1 流動資産

流動資産は、前期末に比べ43億83百万円（△12.0%）減の322億10百万円となりました。その主な要因は、早期資金化の実施などにより受取手形及び売掛金が18億81百万円、電子記録債権が10億59百万円それぞれ減少したことに加え、仕掛品や原材料及び貯蔵品などの棚卸資産が11億64百万円減少したことによるものです。

2 流動負債

流動負債は前期末に比べ43億72百万円（△12.8%）減の298億46百万円となりました。その主な要因は、短期借入金が増加した一方、下請代金の支払サイトの短縮などにより支払手形及び買掛金や電子記録債務が減少したことによるものです。

■ 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 (2024年4月1日から 2024年9月30日まで)	前中間期 (2023年4月1日から 2023年9月30日まで)
売上高	32,659	30,246
売上原価	26,891	25,710
売上総利益	5,768	4,535
販売費及び一般管理費	4,982	4,612
営業利益又は営業損失(△)	785	△76
営業外収益	124	291
営業外費用	278	78
経常利益	631	136
特別利益	—	128
特別損失	140	57
税金等調整前中間純利益	491	207
法人税、住民税及び事業税	194	242
法人税等調整額	△59	0
中間純利益又は中間純損失(△)	356	△35
非支配株主に帰属する中間純利益又は 非支配株主に帰属する中間純損失(△)	3	△0
親会社株主に帰属する中間純利益又は 親会社株主に帰属する中間純損失(△) 3	352	△35

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨ててにより表示しております。

■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 (2024年4月1日から 2024年9月30日まで)	前中間期 (2023年4月1日から 2023年9月30日まで)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー 4	678	△314
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,271	△1,383
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	305	1,582
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△123	186
V 現金及び現金同等物の増減額	△410	70
VI 現金及び現金同等物の期首残高	3,715	2,571
VII 現金及び現金同等物の中間期末残高	3,305	2,641

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨ててにより表示しております。

POINT

3 親会社株主に帰属する中間純利益

経費増加や販売価格の見直しによる利益減があったものの、原材料価格の変動や、設備関連ビジネスおよびニッケル水素電池の売上増ならびに為替による利益増により、営業利益は前年同期に比べ8億62百万円増の7億85百万円となりました。また、補助金収入や為替差益の減少はありましたが、上記営業利益の計上により、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期に比べ3億88百万円増の3億52百万円となりました。

4 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、仕入債務の減少39億56百万円などによる資金の減少はありましたが、税金等調整前中間純利益4億91百万円や減価償却費11億56百万円の計上、売上債権の減少21億65百万円や棚卸資産の減少10億98百万円などによる資金の増加により6億78百万円の資金増加となりました。

FDKグループの概要

2024年9月30日現在

FDKグループは、各種一次・二次電池および蓄電デバイスならびにエレクトロニクス関連の素材・部品とそれらの応用製品・応用装置の製造および販売を主な事業としております。

FDKグループの主要拠点

※工場・生産会社の [] 内は、主要生産品目です。

● 当 社

本 社

◆東京都港区港南一丁目6番41号

工 場

A湖西工場 [スイッチング電源、トナー]

B高崎工場 [ニッケル水素電池、蓄電システム]

C鳥取工場 [リチウム電池]

D鷺津工場 [アルカリ乾電池]

営 業 所

①札幌営業所

②仙台営業所

③首都圏営業所

④名古屋営業所

⑤大阪営業所

⑥広島営業所

⑦福岡営業所

● 当社グループ

国内生産会社

1 (株) FDKエンジニアリング [各種製造設備]

海外生産会社

1 XIAMEN FDK CORPORATION

中国・廈門 [スイッチング電源、各種モジュール、
ニッケル水素電池・リチウム電池のパック電池]

2 FUCHI ELECTRONICS CO., LTD.

台湾・桃園 [各種モジュール]

3 BAOTOU FDK CO.,LTD.

中国・包頭 [電池材料、希土合金]

海外販売会社

FDK AMERICA, INC.

①米国・サンタクララ

②米国・ダラス

FDK SINGAPORE PTE LTD

③シンガポール

(ほか、連結子会社1社)

FDK HONG KONG LTD.

④中国・香港

FDK ELECTRONICS GMBH

⑤ドイツ・ミュンヘン



④鳥取工場



⑤高崎工場



②湖西工場

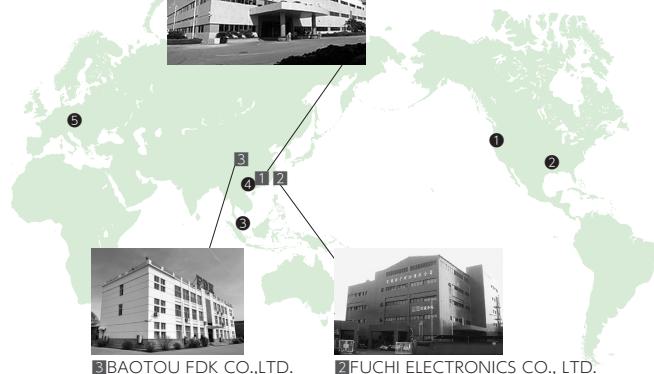


③鷺津工場



① (株) FDKエンジニアリング

1 XIAMEN FDK CORPORATION



③BAOTOU FDK CO.,LTD.



②FUCHI ELECTRONICS CO., LTD.

会社および株式の概要 2024年9月30日現在

■商号 FDK株式会社

(英文社名：FDK CORPORATION)

■設立 1950年（昭和25年）2月7日

■資本金 31,709,007,153円

■従業員数 1,579名 [FDKグループ：2,412名]

■主要製品

電池事業 アルカリ乾電池、ニッケル水素電池、リチウム電池、マンガン乾電池、蓄電システム、各種強力ライト、各種製造設備

電子事業 スwitching電源、トナー、各種モジュール

■役員

●取締役

地位	氏名
代表取締役社長	長野 良
取締役	平野 芳晴
取締役	村嶋 純一
取締役	酒向 潤一郎
監査等委員である取締役	渡辺 伸之
監査等委員である取締役	藤原 正洋
監査等委員である取締役	栗津 瑞恵

- (注) 1. 取締役村嶋純一、監査等委員である取締役藤原正洋および栗津瑞恵の各氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 監査等委員である取締役渡辺伸之氏は、常勤監査等委員である取締役であります。

■発行可能株式総数

株式の種類	発行可能株式総数
普通株式	51,000,000株

■発行済株式の総数および株主数

株式の種類	発行済株式の総数	株主数（前期末比）
普通株式	34,536,302株	15,404名(686名減)

■大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	持株比率(%)
富士通株式会社	20,295	58.82
MSIP CLIENT SECURITIES	1,620	4.70
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	279	0.81
J Pモルガン証券株式会社	218	0.63
上田八木短資株式会社	200	0.58
J P MORGAN CHASE BANK 385781	161	0.47
楽天証券株式会社	159	0.46
FDK取引先持株会	156	0.45
田中 隆士	140	0.41
松井証券株式会社	125	0.37

- (注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨ててにより表示しております。
2. 持株比率は、自己株式（30,945株）を控除して計算しております。

■所有者別株式数分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	(電話照会先)	電話 0120-232-711 (通話料無料)
定時株主総会	毎年6月	公告方法	電子公告
議決権の基準日	毎年3月31日		当社は公告を下記ホームページに掲載しております。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社		https://www.fdk.co.jp/kessan-j/index.html
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社		ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行ないます。
郵便物送付先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部		

株式が「特別口座」に眠っていませんか？

1. 「特別口座」について

2009年1月に法令により株券の電子化が実施されましたが、その際、証券会社の口座に預けられていなかった当社株式については、現在、三菱UFJ信託銀行にある「特別口座」で管理されています。制度上、「特別口座」に管理されているままでは、証券市場で株式を売買することができない等の制約がございます。ご所有の株式が「特別口座」で管理されている株主様におかれましては、証券口座への振替をお願いいたします。

お心当たりございませんか？

- お手元に株券がある
(証券会社に株式を預けていない)
- 配当金のご連絡通知に記載されている株式数と、証券会社に預けている株式数が一致しない

お心当たり
ございましたら

株式が
「特別口座」で
管理されている
可能性が
ございます

◆ご所有の株式が「特別口座」で管理されているかご不明な株主様は、三菱UFJ信託銀行証券代行部 ☎0120-232-711) までお問い合わせください。
(受付時間：土・日・祝祭日等を除く平日9:00～17:00)

2. 「特別口座」にある株式の証券口座への振替方法

証券会社に口座を開設する。

すでに証券会社に株式の取扱いができる口座をお持ちであれば、新たに開設いただく必要はありません。

三菱UFJ信託銀行に振替用の請求用紙 「口座振替申請書」を請求する。

請求用紙に必要事項を記入・押印して 三菱UFJ信託銀行に送付する。

これで手続きは完了です。
証券会社の口座に株式が振替われます。

単元未満株式の買取請求のご案内

当社の単元株式数は100株となっておりますので、単元未満株式(1～99株)については、市場で売買することができませんが、当社に対して買取請求を行なうことができます。

● 買取制度の例 (60株ご所有の場合)

現在ご所有の単元未満株式

60株

(単元未満株式)

買取請求制度

当社株式60株を市場価格で当社へ売却し、
代金を受領する。

60株

(単元未満株式)

¥

¥

¥

当社ホームページ

<https://www.fdk.co.jp/>

当社IR情報

<https://www.fdk.co.jp/kessan-j/index.html>

